

親が習い事に求めるもの  
—ピアノを習わせている親への調査に基づいて—

末 永 雅 子

Benefits of Lessons Expected by Parents  
—Results of a Survey on Parents Enrolling Their Children in Piano Lessons—

Masako Suenaga

With the declining birth rate, parents are becoming increasingly interested in childhood education. While the objective of cram schools and English lessons, which are targeted at advancement to higher education, is enhancement of academic ability, the expected benefits of lessons in activities such as piano and sports are not the acquisition of special knowledge or skills, but rather the development of physical fitness, concentration, and other abilities that are useful in daily life, as well as rich interpersonal relationships with instructors and friends. Learning the piano in particular promotes mental toughness as it involves daily practice at home, and piano recitals and competitions were thought to provide a sense of achievement. Learning the piano was also associated with strengthening of bonds with family members providing support. Few parents wished for their children to specialize in music and become a musician, and most parents wished for their children to continue playing the piano as a hobby. This may reflect the finding that the benefits expected by parents in piano lessons are not the acquisition of skills and knowledge useful for their future paths, but enrichment of their lives.

キーワード

習い事 lessons, ピアノ piano, 成果 benefits, 進路 future path

所属

広島文化学園大学 Hiroshima Bunka Gakuen University

学芸学部 Faculty of Art and Sciences 音楽学科 Department of Music

## 1. はじめに

少子化にともない、子どもの教育に対する親の関心はとても高い。2011年9月に行われた第4回子育て生活基本調査<sup>1)</sup>では、小・中学生の80.3%（地方都市）が、学習塾やスポーツ系、芸術系の習い事を利用しており、子どもたちの学校外における学習が盛んであることがわかる。その中でも楽器を習うものは16.9%と通信教育に次いで多く、特に女子では27.1%と一番高い。

習い事は、子どもにとってどのような効果があるのだろうか。萩原ら<sup>2)</sup>の研究によれば、

青年期に達している者たちの子どもの時代に経験した習い事に対する評価は、技術習得や感情、健康、対人関係においてポジティブな効果があったとしており、特にピアノなど音楽の習い事では、技術面、好きになること、感情が豊かになることにおいて最も高く評価していた。成田<sup>3)</sup>の研究でも、保育科の大学生とその親が、子どもの時代の習い事が現在にプラスになっていると考えていることがわかっている。習い事の中でも特にピアノは、大学での「ピアノのレッスン・音楽の授業にプラス」になり「役に立っている」と思うという回答であった。大学生の専攻が子ども時代の習い事に影響を受ける

かどうかということについては、大滝<sup>4)</sup>によって研究されている。音楽専攻では、全員が音楽関係の習い事をしており、特にピアノは72%が幼児期から習っていた。学生たちにとって進路に役立ったとする習い事は、ピアノが95.8%と最も高かった。また、佐藤<sup>5)</sup>による研究でも、音楽大学への進学には、家族のサポートと早期からの音楽訓練が必要であると言われている。

これらは、音楽大学や保育科の学生への調査を基に音楽の習い事の有効性について研究したものである。しかし、ピアノを習う子どもが、すべて音楽大学や保育科へ進学するわけではない。

筆者は、2008年にピアノ学習に対する親の意識と関与について調査<sup>7)</sup>を行った。ピアノを習わせている家庭のうち76%が、父親か母親に音楽学習経験があり、母親に音楽学習経験がある家庭では、学習経験がない家庭に比べて早い時期に子どものピアノレッスンを開始していた。楽器の習得には、週一回レッスンに通うだけでなく、毎日の自宅練習が必要であるが、幼い子どもが自分から進んで毎日ピアノに向かい、レッスンで出された課題をひとりでこなすことは難しい。練習の習慣をつけるために、母親は毎日、子どもに声をかけ、練習を促していた。また練習の際には、母親が子どものそばに付き添い、「譜読みを手伝う」「音やリズムの間

資料

**習い事に関するアンケート** **2012.8**

1. ピアノのレッスンを始めたきっかけは何ですか。  
 ①本人がやりたいといったから  
 ②親のすすめ  
 ③兄弟姉妹が習っていたから  
 ④友達が習っていたから  
 ⑤その他 ( )
2. ピアノを習わせている理由、または目的は何ですか。
3. ピアノを習わせてよかったと思えますか。  
 はい いいえ
4. それはなぜですか。
5. 現在、ピアノ以外にどんな習い事(学習塾や通信教育を含む)をしていますか。  
 また、その習い事を始めた理由、目的をご記入ください。

習い事	理由または目的
(例) 水泳	体作り

6. 今までさせた習い事の中で一番よかったと思われるものと、その理由をお書きください。  
 一番よかったと思う習い事 ( )  
 理由 ( )

違いを指摘する」などの補佐をしていた。親の音楽への関心の深さと熱心なサポートが、ピアノレッスンの継続と音楽的な成長に影響を与えていることがわかり、これは子どもが音楽的な発達を遂げるには、親が音楽への関心やレッスンに対する熱意を持ち、サポートすることが必要であるという梅本ら<sup>6)</sup>の研究と一致している。

しかし、このうち音楽大学へ進学するのは一部のものであり、ほとんどのものは音楽以外の進路を選択する。スポーツを習う子どもが、すべてスポーツ選手になるのではないのと同様に、ピアノにおいても、親の熱心な関与にもかかわらず、習い事が子どもの進路に結びついていないとは限らない。

習い事の目的が進路のためだけではないのであれば、親はどのような成果を期待して、子どもにピアノを習わせているのだろうか。本研究では、ピアノを習う子どもの親を対象に、ピアノを習わせる理由や目的、進学や就職に対する意識について調査し、親が習い事としてのピアノに何を求めているかを探り、ピアノ指導のありかたについて考えたい。

2. 調査の対象と方法

広島県内の19人のピアノ指導者の協力によって、幼稚園児から高校生までのピアノ学習者の親

7. ピアノのレッスンをいつまで受けさせたいと思えますか。  
 ①小学校卒業まで  
 ②中学校卒業まで  
 ③高校卒業まで  
 ④本人が希望すればできる限り長く  
 ⑤わからない
8. 将来、ピアノ・音楽を専門とする進路(音楽大学・音楽学科)への進学を望まれますか。  
 はい いいえ
9. それはなぜですか。
10. 将来、ピアノ・音楽を専門とする職業についてほしいと思えますか。  
 はい いいえ
11. それはなぜですか。
12. お子様の習い事や進路に関してお感じになりましたらお書きください

学年 (*必須)	幼稚園 年少・年中・年長 小学校・中学・高校 ( ) 年
ピアノ開始年齢 (*必須)	( ) 歳

ご協力ありがとうございました。

を対象とした質問紙による調査を行った。(資料)

調査時期は、平成24年8月から9月である。質問紙は、ピアノ指導者によってレッスンの際に配布され、自宅での回答後、次のレッスンで回収された。配布した162枚の質問紙のうち、150枚の回答が得られ、回収率は92.6%であった。回答した親の子どもの学年と人数の割合は次のとおりである。(表1)

### 3. 結果と考察

#### (1) ピアノレッスンを始めたきっかけ

ピアノを習い始めた契機と年齢について質問を行い、習い事を選択に親の考えがどのように影響しているのか調べた。(表2・3)

「本人がやりたいといったから」という回答が50.3%と最も多く、親が子どもの意志を尊重して、ピアノを習わせていることがわかる。しかし、そのうち56.7%の子どもが3歳から5歳の小学校入学前にピアノを習い始めていることを考えれば、子どもだけの意思で始めたということではなく、親や兄弟、友人など周りからの影響を受けて、子どもがやりたいという気持ちをもつようになったであろうと思われる。ピアノレッスン開始の契機に関する質問は、複数回答を求める設定ではなかったが、「本人がやりたいといったから」と「親のすすめ」の両方に回答したものがいくつかあった。幼い子どもが習い事を始める際には、親や周囲の人からの働きかけが大きいと思われるが、親としては子ど

表1 子どもの学年と人数

学年	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
人数	0	4	9	15	11	13	22	23	24	6	10	5	5	2	2
割合(%)	0.0	2.7	6.0	9.9	7.3	8.6	14.6	15.2	15.9	4.0	6.6	3.3	3.3	1.3	1.3

表2 ピアノを始めたきっかけ

	人数(人)	割合(%)
①本人がやりたいといったから	88	50.3
②親のすすめ	53	30.3
③兄弟姉妹が習っていたから	16	9.1
④友達が習っていたから	8	4.6
⑤その他	10	5.7

(複数回答)

表3 ピアノを習い始めた年齢

年齢	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
人数	20	31	34	33	19	5	3	5
割合(%)	13.3	20.7	22.7	22.0	12.7	3.3	2.0	3.3
累計(%)	13.3	34.0	56.7	78.7	91.3	94.7	96.7	100.0

表4 ピアノを習わせている理由・目的

	人数
本人がやりたいというから、好きだから、音楽に向いているから	39
音楽の楽しさを知ってほしい	27
リズム感・音感をつけさせたい、楽譜を読むように、ピアノが弾けるようになるため	24
職業選択の幅が広がり、将来の役に立つようにするため	21
情操教育として	12
特技を持つことによって、自信をつけさせたい	11
集中力、根気、忍耐力をつけさせたい	8
達成感を味わってほしい	3
女の子の習い事には最適だから	3
学校では教えてくれないから	1
親が弾けないから	1

もの気持ちを大切にピアノを選択しているという様子が見える。

### (2) ピアノを習わせている理由と目的

どのような理由や目的で子どもにピアノを習わせたいと思ったのか、自由記述によって回答を求めた。同じような言葉で表現された文章をまとめると次のような結果になった。(表4)

「ピアノを弾いているのが楽しそうなので」「音楽が好きなので」というように、多くの親が子どもの意志や好みを尊重し、子どもの適性に合わせて、ピアノを習わせている。「音楽の楽しさを知ってほしい」「趣味があるといいと思うので」「親が弾けないのであこがれて」など親の思いも多く書かれていた。

ピアノを習わせている目的に、「楽器が弾けるように」「リズム感・音楽をつけさせたい」「楽譜が読めるようになってほしい」というように音楽的な技術や知識を身につけさせたいというもの、また、「ピアノが弾ければ、将来、役に立つかもしれないので」「職業選択の幅を広がると思って」とその技術や知識を役立てたいという考えも多く書かれていた。その一方で、「自信」「集中力」「根気」「忍耐力」「達成感」というピアノ学習に付随して得られるものを挙げた記述も多くみられた。「情操教育として」「心が豊かになると思って」という記述もあったが、中には「ピアノをすることによって手先が器用になる」「脳が刺激され頭がよくなる」「育児本に習い事の中でピアノが一番子どもにいいといっているから」というものもあり、親が、習い事としてのピアノに期待しているものが、音楽の技術や知識だけでなく、精神的な強さや心の豊かさ、身体や頭脳の発達を目的と考えていることがわかった。

### (3) ピアノを習わせてよかったこと

子どもにピアノを習わせてよかったと思っているか、またその理由を自由記述によって求め、ピアノを習うことでどんな成果を得たと感じているかについて考えた。

表5 ピアノを習わせてよかったか

	人数	割合(%)
はい	147	98.0
いいえ	3	2.0

3名を除く98%の親が子どもにピアノを習わ

せてよかったと回答した。「いいえ」と答えた3名のうち、1名は、「子どもが練習しながら、させることも大変なので」と自宅練習の負担を理由に挙げており、また2名の回答は「将来、役に立つ仕事をするかどうか分からないので」「まだ小さいので、今はわからない」というものであった。

ピアノを習わせてよかったと答えた147名の記述にはさまざまな理由が書かれていたが、その中から子どもに関して書かれた記述と、子どもの姿をみることによって感じる親の気持ちを表したものと分けてまとめた。(表6)

ピアノを習っていてよかったと思う理由には、「子どもが楽しんでピアノを弾いているので、習わせてよかった」という言葉が一番多く、「楽譜が読めるようになった」「ピアノが上手になった」「リズム感がついた」といった音楽的な上達について述べたものも多い。中には、ピアノだけではなく、「歌も上手になった」「他の楽器に興味を持った」「オペラが好きになった」と音楽全般にわたって子どもの興味が広がったことを喜んでいるものもあった。

一方、音楽に関係がないと思われるような「自信」「忍耐力」「根気」「根性」「集中力」「達成感」「自主性」を、ピアノを習わせた成果として挙げた記述も非常に多かった。「両手が器用になった」「暗記力がついた」「勉強もできるようになった」という言葉もあり、ピアノを習ったことによって、子どもが音楽以外の面でも成長したと感じていることがわかった。

毎日の自宅練習は、「忍耐力」「根気」や「集中力」を必要とする。上達すれば、努力することや継続することの大切さがわかり「達成感」を得ることができる。ピアノを毎日練習する習慣は勉学にも通じ、「暗記力」「マナー」「手の器用さ」などと同様に、音楽活動だけでなく生活面や学習の上でも役に立つことである。

子どもが楽器を弾くことができるようになれば、授業や行事など学校で活躍する場面も増える。また、発表会、グレード試験、コンクールの経験も子どもに自信をつけさせる機会となる。「コンクールによって日常とは違う体験ができた」「成果が実ることが本人の自信につながっていると実感できた」と書かれ、さらに、「コンクールなどで負けること、否定されることも必要な経験だと思う」「コンクール受賞・落選、先生・生徒など人との出会い、いろいろな経験を通して、人として成長していった」というよ

表6 ピアノを習わせてよかったと思う理由  
(子どもに関する記述)

	人数
音楽を楽しんでいる	46
楽譜がよめるようになった, 弾けるようになった	25
音楽の知識がついた, 上達した	9
音楽が好きになった	9
リズム感, 音感がついた	4
学校の行事で活躍できるようになった	4
学校の授業がわかるようになった	1
自信がついた	21
忍耐力がついた	19
根性がついた, 精神的に強くなった	8
集中力がついた	7
達成感を得ることができた	7
練習する習慣がついた	5
意欲的になった, 自主性が育った	3
感受性が豊かになった	1
マナーを身につけるきっかけになった	1
暗記力がついた	1
頭を使って学習面でも助けになった	1
両手が器用になった	1

表7 ピアノを習わせてよかったと思う理由  
(親の気持ちを表した記述)

	人数
音楽を好きになってくれた	3
子どもの成長を感じられた	3
楽しそうな様子を見るのが嬉しい	2
本人だけでなく, 家族で音楽と関わる時間ができた	2
親子で連弾を弾いて楽しめる	2
頑張っている姿が見られる	1
両手で弾いているのが凄いと思う	1
娘が弾くのを聴くのが嬉しい	1
娘のピアノに私が癒される	1
子どもを見ていて頼もしい	1
いろいろな曲を弾くことが出来るようになるのが楽しみ	1
家族みんな, 娘の弾くピアノが楽しみになった	1

うに, 発表会での失敗やコンクール落選といった悪い結果でさえ, 子どもに「目標にむかう姿勢」「あきらめない気持ち」を持たせるいい機会になったと書かれていた。(表7)

「子どもが楽しそうにピアノを弾いているのを見るとうれしい」「娘の弾くピアノに私が癒されるから」というように, 親自身の喜びについて書かれたものも多くみられた。これはピアノが自宅練習を必要とするため, 日常的に家族が子どもの練習する姿や上達する様子をそばで

見ることができ, また, 発表会やコンクールなど練習の成果を実感できる機会に恵まれることが理由であると思われる。

家で, 親子での連弾を楽しみ, 音楽について話す時間が増えるなど, ピアノを習わせることによって家族の生活にも変化がみられるようである。「祖父母が楽しみにしてしてくれる」「ピアノの先生が, ピアノ以外のことにも子どものことを考えてくださるのがうれしい」「子どもの成長を見守ってくださる方が増えた」という

表8 ピアノ以外の習い事を始めた理由・目的

塾	学力向上・進学のため
英語・英会話	将来の役に立つ（海外旅行・仕事）
習字	字の上達・左利きを直す・集中力を養う・姿勢を良くする
スイミング	体力作り・学校で困らないように
スポーツ	体力・集中力・団結力・友達作り
そろばん	頭の回転が速くなる
茶道	礼儀作法
空手	根性を養う

言葉のように、習い事としてのピアノが親子関係だけでなく、周囲の人との豊かな人間関係を育くむ役割も果たしており、これもピアノを習うことによって得られる成果のひとつであると考えられる。

#### (4) ピアノ以外の習い事について

ピアノ以外の習い事についても質問を設定し、それぞれの習い事をさせる目的や学年による利用状況の変化について調べた。また、今まで、子どもに習わせて一番よかったと思う習い事とその理由を自由記述によって尋ね、親が習い事にどんな成果を期待しているかについて考えた。

幼児から高校生までのほとんどの子どもがピアノ以外に多数の習い事をしている。幼児でも半数以上が学習塾や英会話、水泳など2種類から4種類の習い事をしている。小学校低学年では水泳、学習塾や通信教育、習字を習う子どもが増え、ピアノしか習っていないと回答したものは、2名(9.5%)だけであった。小学校3年になると学習塾に通うものが41.6%と増えるとともに、4種類以上の習い事をしている子どもの数が29.2%と他の学年に比べても一番高い。中には6種類の習い事をしていると答えたものもあった。特に、スポーツ系の習い事が多く、水泳、ダンス、サッカー、空手など多種にわたっている。小学校高学年になると学習塾に通うものが55.6%と半数を超える代わりに、4種類の習い事をしているものが3名(11.1%)と急激に減り、5種類以上の習い事をしているものはいなかった。学年が上がるほど学習塾に通う割合は高くなり、中学生60%、高校生100%であった。学習塾とピアノのほかに挙げられた習い事は、英語、習字であったが、学習塾に通う割合が増える一方、習い事の数減っている。高校生では1名を除き83.3%が学習塾とピアノだけを習っていると回答した。

ピアノ以外の習い事について、始めた理由、目的は以下のものであった。(表8)

学習塾や英語・英会話には、「授業についていけるように」「いい学校へ入るために」「英語が話せれば、海外に行っても困らない」など身につけた能力そのものを活かす理由が書かれていたが、習字、スイミング、そろばんなどの習い事では、「字がうまくなる」「授業で困らないように」という技術習得の目的だけでなく、「集中力をつける」「体力作り」「マナーを身につける」「根性を養う」など、精神面や生活の中で役に立つ力を目的としたものが多く、これはピアノにも共通している内容であった。

今まで経験した習い事の中で、一番よかったと思う習い事とその理由は次のようであった。

表9 一番よかったと思う習い事

	人数	割合(%)
ピアノ	51	59.3
水泳などのスポーツ系	19	22.1
習字	8	9.3
そろばん	3	3.5
アート	1	1.2
囲碁	1	1.2
バイオリン	1	1.2
積み木	1	1.2
英会話	1	1.2

今までさせた習い事の中で一番よかったと思う習い事に、ピアノを挙げたものが51名(59.3%)と一番多く、次にスイミングなどスポーツ系が多かった。スイミングでは、「体力がついて、風邪をひかなくなった」、記録に挑戦することによって「自信がついた」「目標を持てた」、サッカーやダンスでは、「親子で楽しめる」「友達が増えた」「外で遊ぶようになった」「仲間の大切さがわかった」と書かれていた。進学や学力向上のために必要に迫られて学習塾

や英語や英会話教室に通うものは多いのにもかかわらず、学習塾を挙げたものは一人もなく、英会話も幼児の1名のみであった。

#### (5) ピアノを活かした進学、就職を望むか

子どもの将来について質問を設定し、ピアノのレッスンをいつまで受けさせたいか、またピアノを習ったことを進学や就職に活かしてほしいと考えているかについて尋ねた。

表10 ピアノをいつまで続けさせたいか

	人数	割合(%)
①小学校卒業まで	4	3.5
②中学校卒業まで	6	5.2
③高校卒業まで	5	4.4
④本人が希望すれば出来るだけ長く	91	79.1
⑤わからない	9	7.8

表11 音楽大学への進学を希望するか

	人数	割合(%)
A はい	6	6.1
B いいえ	65	65.7
C いいえ(本人が望むなら)	15	15.1
D わからない	9	9.1
E 回答なし	4	4.0

表12 音楽を専門とする職業を希望するか

	人数	割合(%)
A はい	6	6.2
B いいえ	66	68.0
C いいえ(本人が望むなら)	8	8.3
D わからない	14	14.4
E 回答なし	3	3.1

「できるだけ本人がやりたいことをさせたい」という言葉が多く、60.7%の親が子どもの希望があれば、ピアノのレッスンをできる限り長い期間、受けさせてやりたいと考えていることがわかった。それは、「ピアノよりも夢中になれるものがあれば、そちらを選択してしまうかもしれませんが、ここまでがんばってきてるので、将来の趣味になるくらいは続けてほしいと思います。」という記述にあるように、趣味としてピアノを長く楽しんでほしいというのがほとんどであり、ピアノを専門として音楽大学や音楽学科に進学し、ピアノや音楽を専門とする職業につくことを希望するかという質問

には、「はい」と答えた親はわずか6名(4%)であった。この質問は、「はい」または「いいえ」で答える設定であったが、「いいえ」としながらも設定していない欄外に「本人が望めば考えてもよい」とコメントを書き加えたものや、「はい」「いいえ」には無記入で欄外に「わからない」と書いたもの、また回答を避けたと思われるものもあり、それぞれ「C いいえ(本人が望むなら)」「D わからない」「E 回答なし」という回答を追加して5つの項目によって集計を行った。このように設定以外の回答や無記入の回答は、ほかの質問項目では見られない。進学や就職に関して、「はい」か「いいえ」では割り切れない親の複雑な気持ちが表れているものと思われた。

ピアノや音楽を専門とする進路や就職に関する回答には、それぞれ次のような理由が記述されていた。

表13 音楽に進学、就職を希望する理由

	人数
本人が望んでいるから	6
向いているから	2
やってきたことを無駄にしないため	2
特技を仕事に活かせることができれば、素晴らしいと思うから	1
楽しむためには、もっと知識が必要だから	1

表14 音楽に進学、就職を希望しない理由

	人数
本人の希望ではない、他にやりたいことがある	33
本人に才能がない、そこまでのレベルではない	20
音楽は趣味でやればよい、専門家にさせるつもりがない	11
就職が難しそう	8
学費が高い	6

「いいえ」と回答した親の自由記述欄には、「子どもが望んだとしても親としては反対」という記述もある一方、「親は専門的に音楽に進んでほしいと考えているが、本人が希望していない」という親子で考えが違うというもの、「進路や就職に関しては、本人に任せているので、親として口出しはしない」、または、「親としては反対だが、本人が希望するなら考えてもいい」など微妙なニュアンスの言葉も含まれていた。

進学には「はい」としながらも、就職には「いえ」と回答したものが4名あり、「特技を仕事に活かすことができれば素晴らしいと思うが、実際に就職はむずかしいと思う」という記述があった。また、進学は反対だが、就職には音楽を生かしてほしいと考えているものが5名あり、音楽専門ではなく一般の大学を卒業後、「学校の先生」「幼稚園教諭」「保育士」として就職し、習い事としてやってきたピアノを活かしてほしいという思いが書かれていた。

#### (6) 親が習い事に求めるもの

親の習い事への期待や進路に対する考え方は、自由記述から知ることができる。「学校では学べないようなことも身につけてほしい」「いろいろなことにチャレンジして人生の幅を広げてほしい」「将来の可能性を広げたい」と、習い事によって子どもの個性や能力を伸ばしたいと考えていることがわかる。特に小学校高学年の親には、「幅広い選択ができるように、多くの習い事を経験させたい」「いろいろな分野を知り、視野を広げさせたい」「たくさんの経験から自分に合うものを見つけてほしい」という意見が多く、ほとんどの子どもたちがピアノに限らず、何種類もの習い事を同時に掛けもちしていた。しかし、高学年になるにしたがって、習い事にかける時間が減り、習い事を絞らなければならない。「いろいろな経験をさせてやりたいが、あまり忙しくなりすぎないようにしたい」「学年が上がれば時間がなくなるので、一つに絞ることも考える必要がある」「放課後の時間がなくて、少しかわいそう」「学校生活との両立が難しい」「学校も忙しく、何を習わせたらいいいのか悩む」と、どの習い事を優先し、継続していくのかという問題が大きくなっていくようである。

中学2年生のある親の記述には、「学力至上主義の昨今、ある程度の成績や学校受験のために学習塾に通うことは別として、その他の習い事については、何を身につけるべきかをしっかりと見極めることが大切なのではないかと思う。単にその技術の習得だけに目が行き、すぐにできる、できない、と判断し色々な習い事を転々とする場合があるが、一つの事を継続することは、何事にも通じる力を習得するチャンスになるのではないかと思う」とある。

習い事とは、学校とは違う場で、学校では教えない特別な技術や知識を学ぶことである。習

い事選びのための子育ての本には、子どもにとって習い事が必要な理由として、「学校での授業では、クラス全員に同じ体験量と同じ学習時間を保証しているが、放課後の体験量の差が子どもの学力や体力の差となって表れる」<sup>8)</sup>と書かれているが、進学や学力向上に必要な学習塾や英語・英会話とは異なり、ピアノやスポーツ、習字などの習い事に親が求めているものは、進学や就職の際に役立つ技術や知識というよりも、むしろ子どもの身体や心を鍛え、豊かな人間関係を築くという長い人生の中で、多くの場面に通じて役に立つ能力ではないかと考える。

#### 4. まとめ

多くの親が子どもの意志や好みを尊重してピアノを習わせている。親が習い事に期待していることは、子どもが学校では学べない体験をすることによって、将来の可能性を広げることである。そのため子どもにピアノに限らず、同時に多くの種類の習い事に通わせている。進学に必要な学習塾や英語教室は、学力向上が目的であるが、その他のピアノ、スポーツ等の習い事に求められているものは、特別な知識と技術を得ることではなく、体力や集中力など生活の中で役に立つ力を身につけること、また指導者や友人などと豊かな人間関係を育てることである。習い事の中でも、特にピアノは、毎日の自宅練習によって精神面を鍛え、発表会やコンクールを通して達成感を得ることができ、またサポートする家族とのつながりを強くするものであると考えられていることがわかった。

高学年になり通塾率が高まるにしたがって、習い事の継続も難しくなってくるが、ほとんどの親がピアノのレッスンをできる限り長く続けさせたいと考えている。しかし、子どもが専門的に音楽家の道に進むことを希望しているものは少なく、ほとんどの親は、ピアノを趣味として続けてほしいと希望している。これは親が習い事としてのピアノに求めるものが、子どもの進学や職業に役立つ技術や知識ではなく、長く人生を豊かにすることができる力であることを示していると考えられる。

ピアノ指導者は、音楽大学や音楽学科を卒業しているものが多い。佐藤も指摘するとおり、「音大に進学する多くの学生は、入学の時点である程度は大学における専門領域への興味、能力や適性を備えており、さらにそのことを自覚

していると思われる。」「音楽を受験するためには専門の音楽についての知識と技能を入学以前にある程度身につけておかなければならない。」<sup>9)</sup>ものであるため、自身の体験からはピアノのレッスンの目的が技術と知識を身につけることと思いがちである。成田は、子どもにとって早期の習い事を意義のあるものにするには、親が「我が子の発達の状態を知り、我が子が何を望んでいるのか、我が子の興味関心がどこにあるのかを、可能な限り読み取ることが大切」<sup>10)</sup>としているが、ピアノ指導者もまた同様に、盛んに行われる子どものためのピアノコンクールの結果や、レッスンの進度にとられるのではなく、生徒の発達、望み、興味関心に心を配りレッスンをしていくことが大切である。

この度の調査は、ピアノレッスンを継続している家庭が対象であったが、今後はレッスンを中断した事例についても研究していきたいと思っている。

## 参考文献

- 1) 樋田大二郎「子どもの学力と習い事・進路」第4回子育て生活基本調査(小中版)ベネッセ教育研究開発センター, 2011, pp. 60-72.
- 2) 萩原英敏 山内弥子「子どもの時期の習い事に対する青年期の評価 その1 子どもと親の評価の差を中心に」淑徳短期大学研究紀要41, 2002, pp. 43-82.  
萩原英敏「子どもの時期の習い事に対する青年期の評価 その2 習い事別の項目間の関係を中心に」淑徳短期大学研究紀要42, 2003, pp. 49-65.
- 3) 成田朋子「子ども時代の経験を意義あるものにするために—学生とその母親への習い事についての回想調査に基づいて—」日本保育学会大会研究論文集51, 1997, pp. 710-711.  
成田朋子「早期教育と子どもの発達について考える—本学学生とその母親への習い事についての回想調査に基づいて—」名古屋柳城短期大学研究紀要19, 1997, pp. 35-52.
- 4) 大滝まり子「子ども時代の習い事は大学生の専攻に影響したか」北海道文教短期大学研究紀要25, 2001, pp. 57-68.
- 5) 佐藤典子「音楽大学への進学理由の認知と進学後の適応について」教育心理学研究49, 2001, pp. 47-57.
- 6) 梅本堯夫「音楽的発達過程の研究(その1)—音楽大学生と一般女子大学生の事例研究—」発達科学研究教育センター紀要8, 1992, pp. 163-178.  
梅本堯夫 三雲真理子「音楽的発達過程の研究(その2)—音楽大学生と一般女子大学生の事例研究—」発達科学研究教育センター紀要9, 1993, pp. 99-110.
- 7) 末永雅子「ピアノ学習への課題—調査に現われた保護者の意識と役割—」広島文化短期大学紀要41, 2008, pp. 115-125.
- 8) 明石要一『子どもを伸ばす習い事, つぶす習い事』アスコム, 2007, pp. 8-11.
- 9) 佐藤典子「音楽大学への進学理由の認知と進学後の適応について」教育心理学研究49, 2001, p. 48.
- 10) 成田朋子「子ども時代の経験を意義あるものにするために—学生とその母親への習い事についての回想調査に基づいて—」日本保育学会大会研究論文集51, 1997, p. 711.
- 11) 武知優子「親の音楽演奏経験が小学生器楽学習者に及ぼす影響」ヒューマンサイエンス9, 2006, pp. 25-30.
- 12) 武知優子 森永康子「音楽経験者の大学進学—音楽大学進学考慮者と非考慮者の比較—」日本教育心理学会総会発表論文集49, 2007, p. 642.
- 13) 間瀬尚美 藤村憲子 川上道子 山岡テイ「子どもの習い事の実態と母親たちの意識—子育て生活基本調査より—」日本保育学会大会研究論文集52, 1991, pp. 1420-1421.
- 14) 樋田大二郎「子どもへの進学期待と習い事」第2回子育て生活基本調査(幼児版)ベネッセ教育研究開発センター2003, pp. 57-72.
- 15) 小堀哲郎「習い事事情—日本におけるピアノの受容過程とその大衆化—」総合人間科学研究1, 2009, pp. 65-76.
- 16) 杉山由美子『お子様おけいごと事情』岩崎書店, 2009,